

2021 年度後期「学生による授業評価」に関する検討会

報告書

学科科目以外の科目

目次

総合教養科目運営委員会	p. 1
総合教養科目<女性のウェルネス領域>担当者会	p. 3
キリスト教学科目運営委員会	p. 5
第一外国語運営委員会	p. 6
第二外国語運営委員会	p. 12
情報処理教育運営委員会	p. 13
教職課程運営委員会	p. 14
学芸員課程運営委員会	p. 15
女性学研究所（女性学・ジェンダー科目）	p. 16

2021 年度後期「学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2022 年 10 月 26 日

■検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：総合教養科目運営委員会

■責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：委員長 工藤恵理子

■検討会実施日 2022 年 10 月 26 日

■出席者数 7 名（内、非常勤講師 0 名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

コメント等への回答

・「他の教科と比べると課題が少し多いような気がしました。」というコメントがありました。

→その授業では、シラバスにも明記したとおりほぼ毎回課題を出しました。授業の理解を深めるのに役立つものと考えています。

コメントで指摘のあった、その授業のよかった点（好評だった点）

・理系分野が苦手な私でもとても分かりやすい説明でした。難しそうで今までなんとなく敬遠していた分野に強く興味を持つことができました。

・毎回のノートテイキングや課題を通して、地球環境に関する知識を深められたので良かったです。

・毎回質問やコメントに対して丁寧に返事をしてくれて、とても興味が持てた。

・フィードバックや質問に対する解説もとても勉強になった。

・生物や理科数学に詳しくなくても理解することができる説明があった。

・具体的な例や図を使って説明してくれたのでわかりやすかった。

→授業で課す小問や学生からの質問コメントには、全員にひとりひとりへ返信をするだけでなく、授業では「みなさんからの質問への回答」として Q&A コーナーを設け、解説をおこなったことが、好評だったと考えています。ひとりひとりに小問へのコメントを返すのはとても時間がかかる作業ですが（だいたい 2 - 3 時間かかる）、教員からのコメントが必ず返ってくるということに学生のみなさんは安心感があつたように思っています。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

総合教養科目では、授業外時間学習の時間が十分でないことを継続的に課題としています。学生のみなさんが主体的に学習することができるよう、授業においてさまざまな工夫をしています。

具体的には、それぞれの授業で、以下のような工夫がなされていました。これらは遠隔（オンデマンド）授業において用いられた方法なので、今後対面授業になった場合には、対面授業に適した取り組みについては今後も取り入れていきたいと考えています。

- ① 課題の工夫 web や資料を調べて回答しなくてはいけない課題や調べるツールを制限した課題、資料を読んで内容分析をする課題など、受講生が自分で調べたり、考えたりして取り組む課題
- ② 授業のトピックについて授業前にクイズを出し、それへの回答を授業内で行う
- ③ 「さらなる理解のためのワーク」の出題 具体的には①スライド内の教員からの質問（複数）を

考えてコメントシートに書いてもらうこと、②講義に関連したCM、映画、漫画、ネット上の記事を紹介し、できれば読んでもらう

- ④ 双方向性を確保する工夫 授業の冒頭 20 分程度の時間をとってのコメントシートへの応答、よく書かれたコメントを取り上げ、よい点についてのコメントやフィードバック、前回の授業への質問に回答する時間を設けるなど

2021 年度後期「学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2022 年 5 月 27 日

- 検討組織名 (学科・専攻、研究所、科目運営委員会等)：総合教養科目<女性のウェルネス領域>
- 責任者名 (学科・専攻主任、所長、委員長等)：曾我芳枝
- 検討会実施日 2022 年 5 月 18 日
- 出席者数 9 名 (内、非常勤講師 7 名)

1. 学生へのフィードバック (学生の要望に対する具体的な回答)

1 年生 (必修)

- ・ コロナ禍であったが、運動不足解消やリフレッシュに繋がる授業でした。
- ・ オンラインでも対面でもとても充実した授業でした。
- ・ オンライン授業の中のいい気分転換となり、ストレス発散ともなり、とても楽しい授業でした。これからは身体を動かしていきたいです。→今後の生活の中に運動を取り入れるきっかけとなったようで、効果が出ていると考えます。
- ・ 先生が実際にお手本を示して下さり、アドバイスもくださったので初めて行う競技でもイメージしやすくコツを早くつかむことが出来ました。
- ・ 高校までの授業で体験していなかった多くの種目に取り組めて楽しかったです。
- ・ 健康に関する授業もたくさん学ぶことが出来てよかったです。
- ・ 好意的なコメントを多くいただきました。Zoom での授業もよかったかなと思います。授業の中では下をみたまの学生 (授業に集中していない学生) に対して、質問等を何回か行ったり、全体の質疑応答の時間を増やしたりした授業参加型の形式が良かったのかなと思いました。
- ・ 自宅でできる運動をたくさん提示してくださり、参考になりました。

実技実習 (選択)

- ・ 「とても楽しかったです！バドミントンも授業を受ける前よりも上達したように思えます。ありがとうございました！」→純粋に授業を楽しんでくれた生徒もいたようなので嬉しく思います。また、経験者であっても更なる技術向上によって、この授業に満足してくれるのだということが分かりました。これを機に、これからはバドミントンや自分自身の生活習慣にも関心を持って行ってほしいと思います。

講義 (選択)

- ・ 授業形式として、授業時間もちょうどよく、内容のボリュームもちょうどよかったです。授業の流れが統一されていて、ノートがとても取りやすかったです。そうやってしっかりと区切りがあり、一度の授業で様々な内容に触れられることで、飽きることなく集中して受けることが出来ました。
- ・ 一回の授業で様々な内容が盛り込まれており、とても楽しく学ぶことが出来ました。今後役に立つ内容ばかりだったので、受講して本当に良かったと思っています。
- ・ 授業冒頭に行っているコメントシートのフィードバック (紹介と質問への回答) が良かったというコメントをいただきました。ひとつのトピックに対して他の学生がどのように考え感じているかを共有することは、視点が広がり良いことですので、今後も続けていきたいと思っています。

以上のようにアンケートの自由記述は、肯定的なコメントがほとんどであり、充実した授業であったことが伺えます。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

1 年生必修

- ・ 体育館内での指示の声が反響して聞き取りにくかった、との意見が示されました。
- マスクをしての指示出しであったため、今までのマスクなしの授業時には出されなかった意見があ

り、マスクを出しながら指示を出すときには少し工夫が必要であったと反省し、今年度は注意するとともに、適宜マイクを使用しながら指示を出すようにしたいと思います。

・話す速度が速くなる場合があるとのことでした。→ゆっくり話すように努めたいと思います。

実技実習（選択）

・全日本総合選手権大会等の実際の大会を観戦・YouTube や TV 視聴を促す・授業での DVD 視聴をしました。

・コロナ禍のオンライン授業で作成した資料を、classroom を通じて渡して復習に役立てることができました。

講義（選択）

・科目の性質上、あまり学術的ではない（悩み相談のような）質問が寄せられることもあるのですが、簡単にではありますがフィードバックのなかで要点を整理して「事例」のような扱いで解説したことで、身近なところから考えを深めてもらえたのではないかと思います。

2021年度後期「学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2022年4月16日

- 検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：キリスト教学科目運営委員会
- 責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：遠藤勝信
- 検討会実施日 2022年 4月16日
- 出席者数 2名（内、非常勤講師 0名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

・学生から良かった点として、次のような感想がありました：説明の詳しさ。授業内容。興味の湧く視覚的な資料。コメントシートによる授業の復習と自分の理解の整理の機会。授業のはじめに前回までの授業の振り返りがあった点。授業の進め方と適切なスピード。單元ごとに質問コーナーが設けられていたこと。キリスト教を身近に感じ、本学のSS精神について学べたこと。学生による聖書の音読や質問コーナーがあったため双方向の授業が体験できたこと。毎回のコメントシートに教員からのコメントが添えられていたこと。

・教員が本心で学生に質問を求めていると感ずることがあったという学生からのコメントもありました。学生の顔が見えないZoom授業の限界でしょう。しかし、教員の本心は学生との活発な対話による双方向の授業の実現にあります。授業のなかでは、マイクをオンして質問して下さる学生を待ち、次にチャットでの質問を受け付け、最後にコメントシートへの質問の書き込みを求めるという三段構えで、いつも皆さんからの質問を心待ちにしています。

・「女性の社会進出に関する教員の意見は、キリスト教の教えから離れていると感じた」という内容のコメントがありましたので、お応えしておきます。それは授業の中で紹介したある女性議員の方から預かった皆さんへの伝言に関することだと思います。「女性議員が少ないことを男性だけの問題とせず、男性中心社会に甘んじてきた私たち（女性議員の方をはじめとして）の責任と自覚して、もっと頑張りたい」と。確かに挑戦的な励ましであり、それを押しつけのように感じられたのかも知れません。勿論、人それぞれに価値観があり、様々な人生の選択がありますし、それは誰かに押し付けられるべきものでもありません。しかし、政治の世界に限らず、キリスト教精神を本学で学ばれる（た）学生の皆さんが、良きリーダーとなってあらゆる分野で活躍し、この社会をより良き方向へと変えて行く人になって欲しいという願いを、建学の精神を重んずる本学の教員の一人として私は持っています。

・キリスト教精神を学べ、人格形成に役立てることができたという意見が複数ありましたが、これからもキリスト教の授業を通して、皆さんが人間的に成長できる授業を心がけたいと思います。

・資料や写真が豊富で、説明が詳しく、分かりやすい授業であったという意見が多数ありましたが、皆さんの理解がより深まるように工夫をしていきたいと思っています。

・オンラインの授業でもチャットを用いながらの授業は、質問やコメントを気軽に送ることができ、自己表現・自己発信する力が付いたという意見があり、またチャットの質問やコメントに教師がその場で応えることによって、双方向の授業となっていたという感想がありました。これからも一方通行の授業にならないように学生さんがアクティブに参加できる授業を目指していきたいと思っています。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

・質問がある学生のために、授業中は音声とチャットで、授業後にはコメントシートで三段構えで、臨んでいます。授業中、質問コーナーに時間を取るようにしたいと思います。

・授業内容の理解を深めるために、予習と復習についてより具体的な指示をしたいと思っています。

報告日：2022 年 5 月 26 日

- 検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：第一外国語運営委員会
- 責任者名(学科・専攻主任、所長、委員長等)：川崎典子
- 検討会実施日 2022 年 4 月 19 日—5 月 10 日
- 出席者数 24 名（内、非常勤講師 13 名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

Feedback to students' comments.

（以下、特にポイントと思われる部分に下線を引いてあります。）

（以下、学生からのコメントの英語は原文のママです。）

・「パソコンを使ったクリティカルシンキングが新鮮で、実践的な学習ができ、英語学習への意欲がわいた。」

→Google Classroom のスライドを共有し、グループで議論しながら英語で書き込み報告して頂くアイデアを評価して頂きました。今後も継続していきたいと思います。

・「各章や文章の要点が確認できてわかりやすかった。また、クラスメートと意見や考えを交換する時間があつたのもよかったです。」

→Reading のクラスではありますが、読むことに特化せず、読んだことを基に考え、英語で意見を交換する機会を得られるよう心掛けました。それを良い点として捉えるコメントがあつたのは嬉しいことです。

・「英語の学習教材や関連資料を紹介していた点が良かったと思います。自分の知らない学習方法を知り、授業の内容を深めることができました。」

→この教材についてのコメントは、私のクラスのみのものでなく、第一外国語運営委員会が提供してくれた学習教材（FCPに代わるもの）のことだと思います。有効活用した学生がいたようで、良かったです。教科書の英語を読むだけでは、英語の読解力を上げるには足りないと思うため、関連したトピックの最新の英語ニュースなどを課題に取り入れるようにしました。今後も続けたいと思います。

・いろいろなジャンルのエッセイを読むことができ、とても良かったです。

→できるだけ多様な文章に接して、読み方の技法をこれからも考えて実践的な利用につなげていってください。

・「YouTube 動画を視聴して意見を述べ合うなどの、教科書以外の英語学習が非常に有効で、楽しかったです。また、グループワークを活発に行うことでクラスメイトとの交流が広がった点が良かったです。」

→この方法は昨年度も行っていますが、「読解力が向上した」と回答した全員が実感しており、統合的授業が機能していると思えました。

・特に具体的なコメントはなかったのですが、1名のみ授業を理解できず、授業に不満な学生がいましたので、どのようなことを望むのか書いてほしかったと思いました。

・「遠隔授業であったため、声が全然聞き取れなかった」

→学生が利用する教室からのアクセス状況が悪い、と聞いていました。今後、大学側にも改善をお願いしたいと思います。

・「あまり対面授業である必要性を感じませんでした。教室の温度が低く授業に集中できないため、オンラインの方が集中できると感じました。」

→対面でもオンラインでも質が変わらない授業を、と心がけてきましたが、せっかく顔を見ながら授業ができる機会に逆にディスカッションが出来ないなどのマイナス面も感じていました。寒さについては、今年度は窓とドアによる換気を今年の冬よりは少なくできるように、強力な空気清浄機などの導入など何らかの対策が必要だと思っています。

・対面授業になったのは嬉しかったが、クラス中の受け答えでみんなの声が聞こえにくいときもあったのでマイクの使用をしてもよかったのではないかと思いました。

→マスク着用のままの発言ですし、その点の考慮や対応をしていきたいと思っています。

・ Students said there were too much homework.

→I am very sorry, and I will reduce the amount of assignments.

・ In response to the comment that the student would appreciate to have more time in answering questions during class.

→I would like to respond certainly, from next time I would try to take more time.

・ One student noted that the exam content was slightly different to the content advertised.

→This was because the exam was changed to account for the difference in classes based on student abilities.

・ Some students said that the amount of classwork and homework was good - not too little and not too much.

→I'm glad that it wasn't overwhelming for them, I can appreciate that they have full schedules of classes as well as extracurricular activities.

・ Other students mentioned that they were glad they had a class to practice English conversation, because there aren't many opportunities for them to do so in other classes or in their daily lives.

→However, the students were in their first-year of studies so they may not know they will have other opportunities to do so.

・ Some students mentioned that they could participate in class more easily because they felt comfortable making mistakes in class.

→I was very glad to hear this. Learning a foreign language requires a great deal of practice. At the same time, students can worry so much about making mistakes in class that they

become frightened into silence. I hope that students understand that making mistakes, and learning from them, is an essential part of learning a language.

・ Students mentioned that they were glad that I gave direct feedback in class, which I'm pleased by -- in person feedback helps address specific weaknesses, etc., in a real-time manner.

・ 先生が私の伝えたいことをすごく理解しようと努力してくださったおかげで発言に躊躇う事無くチャレンジ出来ました。結果的に語学力も伸びたと思います。ありがとうございました！
→Thank you. I will continue conducting the class in a similar way in the future.

・ 課題が少し重かった。
→I am sorry about that. I hope it was still beneficial for your learning. In the future, I will remind students to tell me during the course if they think assignments are too easy or too demanding. I think I have asked about it in this course several times, too.

・ 英語に対して少し苦手意識がありますが、英語の勉強の仕方について質問をした際、とても丁寧に教えてくださったのが嬉しかったです。これからも英語の勉強を頑張ろうと思えました。
→Thank you so much for the positive feedback. I am happy to hear that the course was helpful and that you felt motivated to learn and use the language.

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

・ 2021 年度も 10 月初頭までオンライン授業だったため、その後の授業で多読本を教室に持ち込み時間をとって読ませました。学生の反応が良かったので、思い返せば毎回の授業ですればよかったと思いました。多読を家庭学習にするか、授業に入れ込むか、なかなかテキストを進める時間もないので、授業時間を割けませんが、時々してみることは必要と感じました。

・ Reading の授業では、テキストの内容を正確に理解することと Critical Thinking (考えること、発言すること) に重点を置いています。2020 年度の Critical Thinking では、テーマについてクラスでディスカッションを試みましたが、各自が自分の意見を述べるに留まり、ディスカッションの形になりませんでした。2021 年度は、意見を述べる際に前の発言を受けるときのフレーズ、進行係が使うフレーズなど、一定の形を学習してからクラスでディベートをしました。時間的な制限があり、授業中に十分な練習時間が取れたわけではありませんが、意見を効果的に発表するという意味で、ディベートで使われるフレーズの学習は有効かもしれません。

・ 2020 年はオンライン授業に慣れない学生が多かったため、zoom 授業の後半 30 分は Google classroom を活用して、その日の復習を課題の提出という形でおこないました。この方法は、授業の理解度を自分で確認できる、と好評でした。そのため、2021 年は対面授業に移行しても引き続き授業の最後に課題に取り組む時間を作り、課題の提出を平常点に組み込みました。課題は教室でプリントに書き込んで提出しても、同じ時間内に Google classroom で提出しても良いことになりました。

・ クラスサイズがさらに小さくなると、ディスカッションや一人一人の学生のプレゼンテーショ

ンにより多くの時間が避けてよりよいと思います。

・学生があまりテキストの内容に関心を持てなかったようなので、テーマに付随した資料などの提供などをできるだけしました。

・授業形態がオンラインから対面へ、そしてオンラインに戻り、一部の学生は年間を通してオンラインでしたので、資料配布や宿題提出などなるべくすべてオンライン上で行うよう心掛けました。

・配慮が必要な学生のいることを考えると、Google Classroom の利用は大変効果的です。各回の連絡を「授業」欄で予め週ごとのトピックを立てておき、そこに連絡や課題が一覧で見ることができると、学生にとって整理しやすいのではと思います。

・多読ははっきりとした結果につながっていない面があります。トータルでのページ数増加をめざしてもらうことを検討します。

・チェックリストを用いて、提出前に学生に確認をしてもらい、お互いの効率を上げられたらと考えています。

・2020年から、オンライン授業で zoom の時間を効率的に使うために、メールでの質問は授業当日の朝までに送ってもらうように奨励してきました。当初は質問数が少なかったのですが、さまざまなオンライン授業を経験した学生が教員とのメールのやり取りに慣れてきたようで、2021年は質問数が格段に増え、授業までのやり取りで、多くの学生に対してもう一歩進んで考えることを指導することができたと思います。また、質問箇所は授業中に皆で共有し、授業時間を有効に使えました。

・学生が提出物を提出し忘れないように、各々の課題で、リマインダーを数回出しました。(ただし、それでも出し忘れる、やり忘れる人がいます)

・2019年と比べて、全体的にポイントが上がっていました。授業は、2019年度と同じ教科書を使っているため、一番の変化としては対面が一部オンラインになったことですが、オンラインのクラスの方が評価が高いということは予想外でもありました。理由については考えてみたいと思いますが、今のところすぐには思い当たりません。

・語彙を増やしたいという学生たちの声が多かったので、自分の単語帳のようなもの、
vocabulary log (journal) 作成を勧めてみています。

・ It was my first time to teach a hi-flex course, and the students were very cooperative.

・ I have tried to express instructions as clearly as possible orally, and also since my class was conducted by Zoom, by using the chat box. If this class is to return to in person class, I would continue as clear an instruction as possible orally, together with clearly written instructions on the blackboard.

- The main plan was in ensure that students had a clearer sense of what was expected, which was achieved.

- At the beginning of the class, I checked to make sure everyone did their assignments. Then I would have the students practice with a couple of different partners using the home assignment. This could be a short summary of a reading passage, or a personal experience or opinion about a related topic. This gave them the chance to improve their spoken fluency and review the vocabulary. Then I would pick 5~6 students at random to do the summary in front of the class without referring to their notes. This has proved very successful as this activity keeps all students concentrating. Because of this, most students prepared their work well as they felt they had to perform and compete.

The students seemed to be quite happy with the way the classes were taught so I just continued more or less using the same method.

- Considering we were doing these classes online, I believe it imperative to ensure that students make the most of the breakout rooms on Zoom so as to fully utilize the communicative aspect of the goals of the course.

- I have tried to use some Japanese translation if it seems that the concepts being discussed are difficult or abstract. I also shared video clips and news with them.

- To improve participation of students I have tried to explicitly emphasize the importance of practice in the classroom. Explaining that training and practice are important has helped motivate student participation even when they have found class activities uninteresting. Additionally, I try to encourage students to share their work and answer questions when they are not confident about their answers. Finally, I try to find a short visual example of some of the unfamiliar topics discussed in the text book. For example, I show the class short video clips about 'day for the dead' celebrations when they are going to discuss similarities between this holiday and Obon.

- Speak slower. Leave more time for questions. Leave more time to check that students have understood the instructions.

- For this class the main goal was to increase participation, but it seems that students were a little less happy with the practicability and content of the class. As a result, this term's classes are much more structured.

- Setting up some of the tasks from the textbook was initially considered tricky, but in actuality, the process was simple and easy to implement.

- I tried to improve Zoom classes by making them as dynamic as possible, to keep students engaged and interested. For example, inventing a game that made use of the chat function, having students do quick conversations on various topics in breakout rooms that lasted only a

minute or so, use of outside materials to supplement the textbook, etc. I tried to take advantage of the strengths of the technology and minimize the weaknesses.

- This was my first time teaching the course. I have tried to engage students by introducing a variety of sources.

- This was my first time teaching this course. I did not assign a textbook and instead used a lot of time to prepare for the class throughout the semester. This year, in the fall, I am using a textbook (and will supplement it, of course, with real-life materials and stories).

- The Class using zoom was somewhat large. 50 is somewhat difficult over electronic media.

報告日：2023 年 4 月 17 日

■検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：第二外国語運営委員会

■責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：白井 恵一委員長

■検討会実施日 2023 年 4 月 12 日

■出席者数 6 名（内、非常勤講師 0 名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

・結果として遠隔授業の回数が多くなりましたが（語学）、画面共有の「スライド」が見やすくよかった、「ブレイク」の時間があつたことで授業も最後まで集中できたといった意見をもらいました。受講者の集中力に配慮した進め方をこれからも工夫していきます。

・「(実際に自分で) 発音するのが楽しかった」(語学) という意見もありました。小さな点のようですが、語学における参加意識・習得意欲を引き出すのに重要な点であることがあらためてわかります。遠隔は遠隔の良さ、教室は教室の良さがありますが、うまく組み合わせるなどして“声を出す”ことを大事にした授業づくりを進めていきます。

・「復習プリント」(語学) が“手書き記入のうえ提出”というやり方だった点について、「身に付きやすかったと思う」という意見がありました。対面でもむろん同様ですが、遠隔の場合でも「各自毎週必ず手を動かして勉強すること」を求めるようにするなど工夫し、受講者が手ごたえを得られるようにしていきます。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

・「もう少し授業をゆっくりやってほしい」という要望がありました（語学）。オンライン（双方向型）の授業が多かった分、教員の側からの学生状況の把握が十分でなく、ペースが上がってしまったことが考えられます。今後は、対面ならばもちろん教室をよく見て回ることによって、また遠隔になったとしても適宜「質問時間」や「ブレイク」を設けることによって、学生が無理なくついてこられるように配慮します。

・「先生の咳払いが少々耳についた」という意見がありました。遠隔・ハイフレックスで教員の音声の細かに拾われた結果かと考えられますので、遠隔のとき（あるいは教室でもマイクを使うとき）は発声によく留意して授業を進めるようにします。

報告日：2022 年 5 月 27 日

- 検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：情報処理教育運営委員会
- 責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：春名太一
- 検討会実施日 2022 年 5 月 11 日
- 出席者数 5 名（内、非常勤講師 0 名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

「レジュメがわかりやすかったので取り組みやすかった。」というコメントがありました。シラバスに記載されているとおり、この授業は Office ソフトを道具としてアカデミックライティング技術とアカデミックプレゼンテーション技術を学ぶ授業です。単にソフトの使い方を学ぶだけ、あるいはやみくもにレポートを書いたりプレゼンテーションを行ったりするだけの授業ではありません。体系的、段階的および実践的にこれらの技術を学ぶよう、シラバスのスケジュールに沿った詳細な授業資料を準備しました。更に高い学習効果が得られるよう、皆さんの達成度を確認しながら授業資料は毎年更新する予定です。

わからないところがあっても聞きやすい雰囲気だったので、つまづくことなく授業を受けられた。」

「質問をしてもしっかりと返答してくださったり、学生の進行具合を確認しながら授業を進めてくださったので、とても参加しやすかった。」というコメントがありました。コンピュータを使った演習中心の授業なので、TA を配置し演習のサポートをしてもらいつつ、皆さんの理解度を確認しながら授業を進めました。今後もこの形式の授業を続けていきたいと思えます。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

プレゼンテーション実習では、教員からフィードバックを行うだけでなく、Google フォームによる評価シートを用いた学生相互による評価も行っていました。これはまず、発表者に対してフォームの集計結果をフィードバックすることで多角的な視点から自身のプレゼンテーションの改善点について検討してもらうことを意図しています。しかしそれだけではなく、発表者でないときに他者のプレゼンテーションを注意深く聴くことを促し、他者のプレゼンテーションからも学びを得てもらうことを見込んでいます。より高い学習効果が得られるよう、皆さんの状況を把握しながら評価シートの項目は適宜見直していきます。

主にマイクロソフトオフィスソフトをアカデミックに使用すること、またそれぞれのソフトの特徴をいかして組み合わせるスキルを身につけます。コロナ禍に遠隔授業用に作成した教材をアップデートして授業時に用いることで、授業時の実習時間を長く設定することができ、学生からの質問にもきめ細かく対応する時間が持てるようになりました。

コンピュータ上で実際にコマンドを実行してみる実習を中心に授業が進みます。やや単調になりがちなコマンド操作に集中して取り組んでもらうために、講義ノートに履歴を記録し、授業終了時に毎回提出してもらうようにしました。復習や振り返りに活用してもらうことも意図しており、一定の効果は認められましたが、より主体的な取り組みを促すために、今後はトピックごとに発展的な演習課題を課していくことを考えています。

2021 年度後期「学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2022 年 5 月 23 日

■検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：教職課程運営委員会

■責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：委員長 大家まゆみ

■検討会実施日 2022 年 4 月 27 日

■出席者数 3 名（内、非常勤講師 0 名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

・「オンラインですぐに質問できたのが良かった」「分からないことや聞きたいことは、Google Classroom に質問するとコメントが個人宛てに返ってきたのが良かった」「対面授業ではない時期であっても、メールで質問できたのが良かった」という声を、リアクションペーパーやメールで度々いただきました。遠隔授業のメリットを生かすことができたとと思います。

・「小テストは成績にはあまり入らないと言っていたが、せっかくやっているの成績に加味してほしい」というコメントをもらいましたが、本授業の小テストは最低限の基本概念をきちんと消化していることを確認する目的で実施しているもので、「ほぼ満点」が要求水準です。そのため、ある程度しっかりと準備して授業に臨む履修者はほぼ全員が満点になります。

当該授業のシラバスの表現は「平常点 100%」としておりましたが、その概要については、履修者に対し授業開始時点で「授業内ペーパー課題による成績評価となること」に加え、対面授業に移行することが決定した時点で、「小テストも実施すること」、「（小テストの成績は毎回皆ほぼ満点がスタンダードのため）個人間の成績差が付きにくいこと」を伝えています。

したがって、「結果的に」小テストの点数では「差がつかない」という意味であって、成績判定の材料としては組み込まれています。実際、小テストの成績が基準に達していなかったことが理由で不合格となった履修者もおりましたことを申し添えます。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

・昨年度は「授業の資料を Web Class などから配布してほしい」という要望を受けました。そのため、今年度は、対面授業の時期であっても、Google Classroom から PDF ファイルやオンデマンド型授業（動画）のファイルを配信しました。後から自分の空いている時間に確認できるので、事情があっても得ず欠席した場合や、公欠した授業の資料や動画を、自分のペースで学習できるよう配慮しました。特に教育実習の時期が授業と重なると、数週間は公欠になり、授業を欠席せざるを得ません。その場合も、後から学生が自学自習できるように最大限の配慮と工夫をしました。

・「オンデマンド型授業は理解しづらいところ、難しい場面で一時停止して、自分で調べたり、理解できるまで繰り返し視聴し直せるのがとてもよかった」という声があった反面、双方向型のオンライン授業とは異なり「すぐに質問できないので、後から Google Classroom のコメント欄やメールを利用して、個人的に質問した。わからないことがすぐに解決できないのは不便だった」という声もリアクションペーパーやレポート課題の感想として挙がりました。遠隔授業と対面授業、双方向型のオンライン授業とオンデマンド型授業のメリットとデメリットを把握しつつ、これからも授業を改善していきます。

報告日：2022 年 5 月 20 日

■検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：学芸員課程運営委員会

■責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：運営委員長 高橋 修

■検討会実施日 2022 年 5 月 13 日

■出席者数 3 名（内、非常勤講師 2 名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

○課題の提出期限を授業翌日に設定したことについて、もう数日、延ばして欲しいという趣旨の要望がありました。学芸員課程の授業はいずれも現場での実践性という点を重視し、それ故に期日内に課題を提出できることも学芸員に必要とされる能力・資質として重視しています。学生には負担とならないよう、課題内容は授業 2～3 日前には関連データを送付していましたが、毎回、20 分程度で解答可能な分量に設定する等の配慮を行いました。期日の延長を要望するのではなく、限られた時間内で課題を解くための工夫に力を注いでください。

○課題提出を遅れた学生に課題未提出と連絡したことに対し、「煽り」であるとの意見が寄せられました。そもそもではありますが、課題とは期限内に提出するのが当然のことで、上記のような意見を抱くのであれば、授業に対する認識を改める必要があります。当初、遠隔形式を主としていたため、課題提出等はメールや Google Classroom を介した提出形式を採用しました。同形式の問題として、通信障害や機械の誤作動により、提出したものでも未提出扱いとなる可能性があります。課題未提出者にその旨の連絡を行ったのは、慎重を期して確認を行い、学生にとって不利益が生じないようにするためでした。また、連絡にあたっては未提出であるという事実のみを述べるにとどめ、不必要な表現により気分を害さないよう十分に配慮を行ってきました。

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

○将来のロールモデル構築の参考として、文化施設に勤務する本学卒業生の動向等について紹介する『教職・学芸員課程研究』を 2017 年度より継続して発刊しています。課程履修上の参考として授業内でも当該誌について取り上げ、履修学生の意識啓発に努めています。また、本学の卒業生にも同誌を送付し、本学との関係強化に努めています。

○対面形式の授業に戻ったことに伴い、リアクションペーパーを活用し、随時、学生の授業理解の度合いを把握するように努めています。また、博物館の現場でも団体を受け入れるようになったので、館職員と直接、対話できる機会を設け、職務の実際についてより深い理解が出来るように配慮しています。

報告日：2022 年 5 月 19 日

■検討組織名：女性学研究所

■責任者名：女性学研究所 所長 上野加代子

■検討会実施日 2022 年 5 月 18 日 ※5 月 18 日までに実施してください。

■出席者数 3 名（内、非常勤講師 0 名）

1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

※女性学研究所は、本設問は対象外（FD 委員会）

2. 授業改善等に向けた具体的な方策

2021 年度後期授業はオンデマンドの形式もあり、一程度の工夫が必要であったが、総じて女性学・ジェンダー関係科目は全体集計よりも肯定的な評価であることがうかがえた。特に設問 12 の「授業を受講してこの授業が対象とする分野への問題意識や関心が高まりましたか」に関しては女性学・ジェンダー関係科目が「非常にそう思う」が 64%であったのに対し、全体では 47.9%とかなりの差が見られた。

ジェンダーとは身近である反面、「当たり前」でありすぎて気づきが得られていない可能性がある。そのため、日常の身近な出来事を挙げて気づきをうながす解説を行い、統計資料等で裏付けを行うことにより、学生は問題意識や関心の高まりが得られたことが推測できる。

具体的な工夫としては、先に述べたように日常にある出来事、話題になっているニュースを具体例として、ジェンダー理論に結び付けるような授業の構成としたことである。